

4 意見の概要

テーマ1：人手不足解消のための規制緩和等

- ・ 海外人材、副業、兼業、テレワーク、主婦、高齢者、障がい者など多様な人材を受け入れる。特に海外人材の受け入れは重要と考える。
- ・ 現状の規制が、どのような経緯で制定・改正されたのか示した上で議論を行う。新しい規制1件につき2件の規制を廃止する2対1ルールなどを導入してはどうか。
- ・ ロボット化、AI化を徹底する。労働現場での教育、学校現場で未来の労働者育成に注力する。最低賃金が安すぎる。

テーマ2：「あきたこまちR」への全量転換

- ・ 日本人にとってお米が一番大切な食べ物である。放射線で突然変異させた米が、今後人体にどのような影響を及ぼすのか不明であり、100%安全とは言えないはずである。
- ・ 「あきたこまちR」がいくら安全だと言っても、私は従来の「あきたこまち」を食べたいし「あきたこまちR」は食べたくない。従来の「あきたこまち」を守って欲しい。
- ・ 消費者にも生産者にもほとんど情報がない中で全量転換を決めてしまったことは大問題で、期間を延期の上、議論する場を設けるべきである。
- ・ カドミウム汚染水田が全体の2～3%ならば、そのために秋田県全体で「あきたこまちR」に切り替える必要はないのではないか。
- ・ 生産者も消費者も、「あきたこまち」と「あきたこまちR」のどちらを生産・消費するか、選択できるようにすべきである。
- ・ カドミウム米の問題は秋田県だけの問題ではなく、秋田県だけが先行するのは拙速・時期尚早である。
- ・ カドミウム吸収抑制のための出穂前後の湛水管理と収穫後の含有量検査は、生産者にとって金銭的、精神的に非常に重い負担であり、導入は受け入れるべきと考える。
- ・ 湛水管理などの圃場管理労力の低減が図られる。輸出の機会も増える可能性があり販売戦略など、利点への貢献が多大であり、他品種への拡大も期待している。

テーマ3：暮らしを支える地域公共交通

- ・ 今、運行しているバスを数人乗りの小型車にしたり、シルバーカー（高齢者用手押し車）で乗車が可能なものを導入したらどうか。
- ・ ライドシェア（相乗り）の解禁とタクシーの定額乗り放題、自動運転を導入する。
- ・ 太陽光、風力や地熱エネルギーなどを活用し、公共交通機関を動かす。

テーマ4：新県立体育館の整備

- ・ 八橋運動公園への建て替えは、駐車場が十分でなく反対の立場である。最良案は、こまちスタジアム周辺、次案は秋田駅西口と考える。
- ・ 八橋運動公園への建て替えでは、駐車場の確保が大変である。中途半端な施設ではなく沖縄アリーナのような規模の施設を作る意欲で取り組んでもらいたい。
- ・ 秋田駅や秋田空港から公共交通機関で接続できるようにすると良い。

テーマ5：観光振興のための二次交通

- ・ ライドシェア（相乗り）の解禁とタクシーの定額乗り放題、自動運転を導入する。
- ・ 観光資源の人気アップを図るのが先であり、観光地が人気になれば自然と交通業者が参入してくる。
- ・ 自転車に乗せることができる電車を運行し、自転車での観光を促進したらどうか。秋田市中心部に地下道を設置すれば、天候に左右されない気持ちの良い観光ができるのではないかな。

テーマ6：結婚・出産の希望を叶えるために

- ・ 妊娠するためには、食べものと心身を温めることが重要であり、自然栽培の農産物の購入費用や温浴施設の利用料などに補助金を支給すれば良い。
- ・ 兵庫県明石市のような子育て政策を行う。
- ・ 女性がどのような結婚、出産を望んでいるかに耳を傾ける。出産後1年程度はいつでも何でも相談できる本当の伴走ケア体制が必須と考える。
- ・ 結婚減税、出産減税を行うのはどうか。
- ・ 結婚サポーター等に一定の権限を持たせて、もっと結婚支援を強化すべきではないか。

テーマ7：コロナ収束後の人口減少対策

- ・ 大卒者が就職したくなる県内企業を増やすことと共働き世代が仕事と家事を両立できる環境を整備することが必要と思う。
- ・ 学校配置の課題を解決するため高校通学のため県立寮を設置したり、農地維持のため農家子弟が進学後就農すれば奨学金を返済免除にする制度を創設したらどうか。
- ・ 固定資産税や相続税の負担を減らし、長期定住を推進すれば良いと思う。
- ・ 高校まで公立私立授業料無償化、大学も授業料支援など、もっと教育に力を入れるべき。そうすれば、子育て世代は秋田に戻って子育てをすると考える。
- ・ 県は人口減少対策も少子化対策も本気で取り組んでいるようには見えない。結果を出した方の助言や人工知能などを取り入れ、これまでとは違う取組をしてほしい。

テーマ8：地域の医療

- ・ 二次医療圏の広域化が示されたが、県民の理解は難しいと感じる。地域医療とは、どこに住んでいても同じ医療サービスが受けられることが一番の安心と考える。
- ・ オンライン診療を拡大してはどうか。救急車での移動の要否の判断や救急隊員とのやり取りなどでも活用できるのではないか。

テーマ9：部活動の地域移行

- ・ 専属の運転手付き大型バスを導入し、保護者が自家用車で送迎する負担を減らしたり、外部コーチへの謝礼を行政から直接支給する制度などを整備してほしい。
- ・ スポーツ県民債など秋田県ならではの財源確保をしてはどうか。

テーマ10：高齢ドライバーの事故防止

- ・ ライドシェア（相乗り）の解禁とタクシーの定額乗り放題、自動運転を導入する。
- ・ 自分の体調や認知力を適切に評価し、免許返納という合理的な判断ができる能力の育成や運転をやめることの利点を周知することが必要と考える。

テーマ 11：行政用語の「平易化」

- ・ カタカナや英語ではなく、漢字とひらがなを織り交ぜた方が分かりやすいと思う。
- ・ 注釈で説明を入れたら良いのではないか。
- ・ 行政用語をひらがなや方言で説明したり、分からなかった箇所を県のウェブページに投稿できるような仕組みを作ってほしい。